

## 令和3年度宮崎県歯科保健推進協議会議事概要

- 1 日時及び場所 令和4年3月15日(火)午後1時30分から午後3時まで  
県防災庁舎4階42号室
- 2 出席者 黒木委員、荒木委員、榎園委員、近藤委員、甲斐委員(日高委員代理)、柿崎委員、米澤委員、内山委員、佐野委員
- 3 会長・副会長選出  
会長に黒木委員、副会長に近藤委員が選出された。
- 4 報告
  - (1) 令和3年度宮崎県の歯科保健事業の取組  
令和3年11月に「第42回全国歯科保健大会」及び「全国歯科保健推進研修会」が現地開催とweb開催のハイブリットで行われた。
    - 委員：妊産婦における歯科保健対策について  
宮崎市は妊婦歯科健診をやっているが、受診率が伸びない。産婦人科から妊婦に健診を受けるように勧めていただけると大変ありがたい。令和2年度の実績は16名で少ないように感じるが、どのように事業を進めているのか。
    - 委員：この産科医療機関の関係者や妊婦への指導、研修の事業は、すでに長くやっている事業であり、実施医療機関が固定化してきている。  
令和3年度は医療機関の新規開拓を県産婦人科医会を通じて行う予定であったが、コロナ禍で産婦人科医療機関での指導・研修が中止となり、かわりに県産婦人科医会全体への研修を行った。
    - 事務局：令和3年度の県産婦人科医会全体への研修では二次元コードから視聴できる「妊婦さんのための口腔ケア」／「赤ちゃんのためのむし歯予防ガイド」の動画配信についても案内させていただいた。実績は例年100名前後上がっており、令和2年度はコロナ禍による影響もあったのではないと思われる。
    - 委員：産婦人科医療機関で行う指導・研修は、これまで募集期間が短く、手を上げにくかったこともあるのではないか。
    - 会長：工夫しながら増やしていけるようにしたい。
  - (2) 宮崎県歯科保健推進協議会成人期実務者会議について  
実務者会議代表委員より報告  
成人期における歯科保健対策推進のための効果的な施策等について  
歯科健診を実施している事業所3.91%(R3年度調査)←2.64%(H25年度調査)
    - 会長：事業所の歯科健診大変低い。
    - 副会長：個別と集団でやっているが、どのようにやっているのか。
    - 委員：県歯科医師会が企業と契約して行っているが、個別健診は歯科医院に来院して行う健診である。集団型は企業に出向いて健診する。
    - 副会長：歯科衛生士会もお手伝いできるのでどこの企業に行ってなど声かけしていただけるとありがたい。

- 委員：事業所歯科健診の数値がなかなか増えない。理由はいろいろあると思うが、補助金もあるということなのでしっかり周知をしてほしい。
- 委員：補助金は医科歯科含めての10万円であり、しかも1企業につき1回限り。事業所が歯科健診の重要性を見いだしてうまく使ってもらいたい。
- 委員：薬局を開業して30年になり、従業員の健診毎年やっている。歯科健診はあまり検討されていなかった。今年から歯科健診について検討する予定。
- 委員：成人歯科健診の受診率を上げるために、特定健診と一緒にできないか。やっていたところがあったと思うが、現在も少ないのか。
- 委員：やっていたところはあったが、なかなか広がっていない。

- 委員：宮崎県歯特定健診の受診率が低い。血糖値が高い方は歯が悪い人が多い。生活習慣病と歯科は切り離せない部分があると思う。何とか連携が取れるとよい。
- 委員：いろいろな機会を捉えて連携できるよう勧めていきたい。
- 委員：啓発をしても必要性を感じない場合もあるので、何かとセットでパッケージ的に提供できるとよい。宮崎市では歯科健診に血糖値測定をセットで実施している。
- 会長：法律による裏付けがあればよいが、歯科の場合は酸を取り扱うなど特殊な環境の時だけ。それ以外は事業所の自主性に委ねられている。  
少しずつだが、県歯科医師会に契約についての相談も増えてきている。
- 資料2-1 4(2)「成人期における効果的な施策等について」は、この内容で「特に問題なし」との意見をいただいた。

### (3) 第2期宮崎県歯科保健推進計画の目標項目とデータの推移

- 委員：日本学校歯科医会でも、コロナ禍における歯みがき指針を出していたと思うが、学校現場に伝わっているのか。
- 事務局：日本学校歯科医会、日本口腔衛生学会 県教育委員会を通じて周知させていただいている。
- 委員：日本口腔衛生学会の見解などいろいろアナウンスはしているが、学校で実際にできるかというところは各学校の判断になる。
- 委員：過剰すぎる心配をしているところもある。やるべきところをやれていないことも多い。
- 会長：健康づくりについては何でも中断出なくスイッチをどこかで切り替えて推進する必要がある。フッ化物洗口の実施にも影響が出ている。
- 委員：厚生労働省の「妊産婦のための食生活指針」が令和2年度に改定され、お母さんの「やせ」が多いことなどを受けて、エネルギーをしっかりとる。等の指針が示されている。低出生体重児にも関わり、将来の生活習慣病のリスクにもなる。
- 委員：パパママ教室などに、歯科医師会からも行っていたが、今は教室自体がほとんどされなくなっている。「妊産婦における歯科保健対策」で妊婦自身がスマホ等で赤ちゃんやお母さんのむし歯予防などの動画が見れるようにしている。令和4年度に動画の内容を見直す予定にしている。
- 会長：最近ではYoutubeなどの動画配信による啓発も増えている。

(1) 第3期宮崎県歯科保健推進計画について

○第3期計画の策定に向けた主なスケジュール 「問題なし」との意見あり。

○委員：「進行した歯周炎を持つ者の割合を減らす」のデータが令和4年度取れないことについて、「宮崎県抜歯の原因調査」のように、25歳から34歳など対象者と期間を決め、その期間に歯科医療機関に来院した人の口腔内データを集めることができないか」検討したい。

○委員：歯周炎を減らすことは大切、高齢化もすすみ、歯を失う原因にもなる。むし歯の数を減らすことは、ずっとやってきている。フッ素の応用で成果も出てきている。ゼロに近い方がよいと思うが、そろそろ別なアプローチを模索してもよいのではないか。

例えば、歯科と糖尿病（血糖値）や肥満（BMI）などとを関連付けた目標値を設定してはどうか。

○委員：新しい指標を検討することはよい。むし歯は全国と比べて多く、むし歯の項目自体は残してよいと思う。

○委員：「時間を決めておやつを与えている保護者の割合」を「栄養バランスを考えている」に変更するとかはどうか。

○委員：他県の先進的なものがあれば検討してほしい。他県の計画を調べることは可能か。

○事務局：可能です。

○会長：機能に着眼し、高齢者のフレイルや口腔機能低下症（オーラルフレイル）、小児期の口腔機能発達不全などについて考えていくこともよいかもしれない。

○会長：進行した歯周炎のデータについて、佐野委員から提案のあった歯科医療機関でのデータを取ることにについては、検討していきたい。そのうちビッグデータなどが取れるようになればもっとよいデータがもらえるようになるかもしれない。

○事務局：歯科医療機関でのアンケートは大変ありがたい。具体的な内容については今後県歯科医師会とも詰めさせていただきたい。

○委員：県民健康・栄養調査が大変なことはよくわかっている。

国保のKDBや社会保険支払基金にはその他の保険者のデータもあると思う。それらのデータを活用し、全国と比較して宮崎県の問題が何かを明確にし、それに対し歯科の分野でできるところを検討して行くとよいのではないか。宮崎県には低出生体重児が多い、要介護に至る前に早死にするなど早世の人が多などの課題がある。大きい視点に立って、歯科協議会で歯科が絡める部分について話し合い、県民の健康寿命の延伸につながるとよいと思う。

○委員：口腔の健康は認知症とかいろいろなところから全身の健康につながっており大切である。法律でも歯科健診は義務ではない。企業に勤めていた時にも健康診断の案内は来るが歯科健診は入っていなかった。こんなに関係しているのになぜ進まないのか。もう少し進んでほしいと思う。

6 閉会